

令和5年度

指導員養成訓練 指導員養成課程

指導力習得コース

シラバス



職業能力開発総合大学校

POLYTECHNIC UNIVERSITY(PTU)

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名：指導員養成課程 指導力習得コース

| 専攻 / 科名 | | 授業科目名 (英文授業科目名) | 時間数 | 担当者 |
|--------------|---|------------------------------------|---------|---------------------------------|
| 全指導科 | | 授業計画法 (Method of Teaching Plan) | 36H | 新井 吾朗 深江 裕忠 中村 友基 濱田 勇 |
| 科目区分 | 能力開発学科 | | 必修 / 選択 | |
| 授業形態 | 講義 | | | |
| 授業方法 | <input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input checked="" type="checkbox"/> Moodle <input checked="" type="checkbox"/> Webex | | | |
| 履修年次 開講時期 | 3年次 前期 | | 必修 | |

| 授業の目的と概要 |
|--|
| 職業訓練指導員には、職業能力開発促進法に基づきさまざまな課程の職業訓練を計画し、実施することが求められる。この場合、与えられるカリキュラムや授業計画、教材類に沿って訓練を実施することだけにとどまらず、法の規定、産業や地域、働く人の希望、職業の実態などを勘案した計画が求められる。こうした背景から、本科目は、職業訓練の役割、法の規定、産業や地域の要望を反映させた訓練計画、単位授業の計画を立案できるようになることを目的とする。 |

| 到達目標 |
|--|
| 1 さまざまな職業能力開発施設が実施している職業訓練の課程を判別できる 2 公開されたカリキュラムモデルを参考に能開法に基づく(普通課程/短期課程(システムユニット訓練)のカリキュラム案を作成できる 3 特定の職種・作業に必要な職業能力を育成するカリキュラムを計画できる(能力資質分析・目標分析・作業分解) 4 学習内容を職業適用できるように、POCEが一貫するように、単位授業を計画できる 5 単位授業を指導の3原則4活動を組み合わせて計画できる 6 授業の内容、進行を他者と同じように理解できるように、標準的な記述方法で指導案を記述できる |

| 授業計画 | | 備考 |
|------|--------------------------|-------|
| 1 | 科目のガイダンス 職業訓練の目的・基本理念 | 講義・演習 |
| 2 | 訓練課程の種類 | 講義・演習 |
| 3 | 訓練コースの計画(長期課程) 1 | 講義・演習 |
| 4 | 訓練コースの計画(長期課程) 2 | 講義・演習 |
| 5 | 訓練コースの計画(短期課程) 1 | 講義・演習 |
| 6 | 訓練コースの計画(短期課程) 2 | 講義・演習 |
| 7 | 能力資質分析によるカリキュラム開発 1 | 講義・演習 |
| 8 | 能力資質分析によるカリキュラム開発 2 | 講義・演習 |
| 9 | 目標分析によるカリキュラム開発 | 講義・演習 |
| 10 | 作業分解によるカリキュラム開発 | 講義・演習 |
| 11 | 指導案の書き方(目的・到達目標・指導項目) 1 | 講義・演習 |
| 12 | 指導案の書き方(目的・到達目標・指導項目) 2 | 講義・演習 |
| 13 | 指導案の書き方(指導の3段階と4活動) 1 | 講義・演習 |
| 14 | 能力の種類と指導方法の原則 1 | 講義・演習 |
| 15 | 能力の種類と指導方法の原則 2 | 講義・演習 |
| 16 | 指導案の書き方(指導の3段階と4活動) 2 | 講義・演習 |
| 17 | 指導案の活用、指導の実演 1 | 講義・演習 |
| 18 | 指導案の活用、指導の実演 2 | 講義・演習 |

| | |
|----------|--|
| 評価方法 | 演習課題 評価の前提条件 4/5を超える出席、すべての課題の期限内での提出 課題の評価基準 A 欠点がない B 少数の欠点が見られる C 複数の欠点あるいは/または少数の誤りが見られる D 複数の誤りが見られ授業で扱った技術を適用していると認められない 科目を代表する課題の評価で、点数をつける。 科目を代表する課題で評価がDの場合、科目は不合格。この場合、一度だけ再提出を認める場合がある。 |
| 教科書及び参考書 | 教科書：自作テキスト、コンテンツ：eラーニング教材 |
| 主な使用機器等 | パソコン、 プロジェクタ |

その他

- 1) 受講方法、受講環境の整え方、出席確認の方法、課題への取り組み方、剽窃の禁止、課題の提出方法と期限、および履修中止となる場合について、初回ガイダンスで説明する。
- 2) 履修中止となった場合は、職業大が事前に認めている条件以外ではこれを回復することはない。初回ガイダンスを必ず受講して、履修中止の条件を確かめること。初回ガイダンスを欠席した場合はmoodle上に掲示しているガイダンス資料で確かめること。
- 3) Webex等で遠隔での受講を可能とする場合があるが、通信環境、PCなどの学習環境は受講者の責任で整えること。
- 4) 受講者はPC操作について次のことができること。これらは授業内では指導しないので、受講前にできるようにしておくこと。
 - ・ワード、エクセルによる文書作成・編集 インターネット等から収集した上を文書上に見やすく配置する、指定された様式を用いて見やすく文書を作成する、複数の文書をまとめて1つの文書(ワード・エクセル・pdf間で)にまとめる。
 - ・インターネットで指定された情報を検索する。
 - ・インターネット上のアプリ(pdf編集、ビデオファイル編集)を、自身で操作方法を確認しながら使用する。
 - ・課題提出時に、Google ドライブなどのクラウドにファイルを保存し、LMS上の課題提出場所にファイルへのurlリンクを提出する。クラウド上のドライブを利用できるようにIDなどを取得しておくこと。

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程・コース名：指導員養成課程 指導力習得コース

| 専攻 / 科名 | | 授業科目名 (英文授業科目名) | 時間数 | 担当者 |
|--------------|-------------------------|-------------------------------------|---------|-------------------------|
| 全指導科 | | 技能指導法 (Skill Instruction Method) | 36H | 中村 友基 安原 雅彦 前田 晃穂 |
| 科目区分 | 能力開発学科 | | 必修 / 選択 | |
| 授業形態 | 講義 | | | |
| 授業方法 | 対面授業 Moodle Webex | | | |
| 履修年次 開講時期 | 3年次 前期 | | 必修 | |

| 授業の目的と概要 |
|--|
| <p>【授業の目的】 職業訓練指導員は、訓練受講者の今後の生活に大きな影響を与えかねない重要な職業です。職業訓練指導員として必要な態度の形成、訓練を適切・安全かつ効果的に展開する技能の育成・向上を目的とします。</p> <p>【授業の概要】 本授業は 指導案・教材作成、模擬授業の実施と評価・改善、指導技法の習得、レポートによる模擬授業の検討や振り返りの4つで構成されています。各項目の詳細は以下の通りです。 模擬授業を行うための指導案や教材を繰り返し作成することで、授業設計の理解を深めます。複数回の模擬授業を通じて、訓練受講生が「できるようになる」ための指導のポイントを体感し、より適切な指導を目指し指導技法を学びます。指導員として求められる態度が発揮できるよう、指導に必要な「伝え方」や「教材提示」等の方法を学びます。模擬授業内容を複数人で検討し、それぞれの考えを共有・議論することで、より適切な授業の進め方について学びます。</p> |

| 到達目標 |
|--|
| <p>実際の授業に適した、指導の流れや話しやすさ等を考慮した指導案を作成できる。</p> <p>作成した指導案・教材を用いて、授業を展開できる。</p> <p>指導員としての伝え方の技術を適用できる。</p> <p>教材提示（示し方）の技術を適用できる。</p> <p>安全に関連した指導項目を漏れなく指導できる。</p> <p>実施した授業を振り返り、受講者の意見や自己の反省を踏まえ、授業を評価・改善できる。</p> |

| 授業計画 | | 備考 |
|-------|--|-------|
| 1 | ガイダンス 本講義の目的・目標 本講義の進め方、成績の考え方について 指導員の役割について | 講義 |
| 2~4 | 伝え方の技術、模擬授業の実施、模擬授業についてのディスカッション、ディスカッションを受けての授業評価・改善 | 講義・演習 |
| 5~8 | 教材提示の技術、模擬授業の実施、模擬授業についてのディスカッション、ディスカッションを受けての授業評価・改善 | 講義・演習 |
| 9~13 | 実演の技術、模擬授業の実施、模擬授業についてのディスカッション、ディスカッションを受けての授業評価・改善 | 講義・演習 |
| 14~18 | 模擬授業の実施、模擬授業についてのディスカッション、ディスカッションを受けての授業評価・改善 | 講義・演習 |

| | |
|----------|--|
| 評価方法 | 指導案、模擬授業、模擬授業における受講者役の理解度等による総合評価。合格基準は60%以上。 |
| 教科書及び参考書 | |
| 主な使用機器等 | パソコン、プロジェクタ、レーザーポインタ、指示棒、ストップウォッチ等、卓上ベル、ビデオ、カメラ、書画カメラ等 |
| その他 | |

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名：指導員養成課程 指導力習得コース

| 専攻 / 科名 | | 授業科目名 (英文授業科目名) | 時間数 | 担当者 |
|--------------|-------------------------|--|---------|-------|
| 全指導科 | | 訓練評価法 (Training Evaluation Methods) | 36H | 深江 裕忠 |
| 科目区分 | 指導力習得コース | | 必修 / 選択 | |
| 授業形態 | 講義 | | | |
| 授業方法 | 対面授業 Moodle Webex | | | |
| 履修年次 開講時期 | 3年次 後期 | | 必修 | |

授業の目的と概要

職業訓練指導員は、訓練を実施するなかで評価も行う。ただし、この評価とは、訓練生の成績をつけるという意味ではない。それ以外にも、訓練活動の評価も行う。訓練活動とは、訓練計画、訓練カリキュラム、訓練教材、訓練手法、訓練環境といった、訓練全体の内容のことである。この訓練活動の評価することで、訓練内容のどこに問題があるのかを見つけ、改善点を明らかにすることができる。また、訓練生を評価するときには、公正で不公平のないように実施するのが肝要である。そのためには、訓練評価の4つの性能を見極めて、4つの性能のバランスを取ることが大事である。本授業では、訓練生と訓練活動の評価ツールの開発だけでなく、4つの性能も考慮したバランスのよい訓練評価を習得することを目的とする。

到達目標

- 1 訓練評価の目的について、資料を見ながら説明できる。
- 2 訓練評価の4つの性能とトレードオフについて、例を挙げながら説明できる。
- 3 訓練評価の5レベルについて、資料を見ながら説明できる。
- 4 訓練活動の評価について、課題として与えられた練習用仮想訓練コースを対象に開発手順に従って、評価計画とアンケート用紙・ヒアリング項目を作成できる。
- 5 受講者の評価について、課題として与えられた練習用仮想訓練コースを対象に作成例を参考にしながら、筆記試験と実技試験を作成できる。

授業計画

備考

| 授業計画 | | 備考 |
|------|--|-------|
| 1 | 1. ガイダンス (1) シラバスの提示と説明 (2) Moodleでの学習の進め方 | 講義・演習 |
| | 2. 訓練評価の定義 | |
| | 3. 訓練評価の全体像と使う場面 | |
| 2 | 4. 訓練評価に必要な知識 (1) 総括的評価と形成的評価 (2) 訓練目的・到達目標との関係 (3) 訓練評価の5レベル (4) 訓練評価の4つの性能 | 講義・演習 |
| 3 | 5. 訓練生の評価 (1) 主な評価ツール (2) 口頭質問と机間巡視 (3) 客観的試験法 (4) 主観的試験法 | 講義・演習 |
| | 6. 筆記試験の開発 (1) ×試験の開発 | |
| 4 | (2) 筆記試験の開発 | 講義・演習 |
| 5 | | |
| 6 | 7. 実技試験の開発 | |
| 7 | (1) 実技試験の種類 (2) 実技試験の評価対象 (3) 配点計画 | 講義・演習 |
| 8 | (4) 採点基準の定め方 (5) 実技試験の改良 | |
| 9 | | |
| 10 | | |
| 11 | (6) 実技試験の新規開発 | 講義・演習 |
| 12 | | |
| 13 | | |
| 14 | | |
| 15 | 8. 訓練活動の評価 (1) 主な評価対象と確認項目 (2) 訓練活動の評価方法 (3) アンケートの開発 | 講義・演習 |

| 授業計画 | | 備考 |
|------|--|----|
| 16 | 9. これまでのまとめ (1) 筆記試験 (2) 実技試験 (3) アンケート | |
| 17 | | |
| 18 | | |

| | |
|----------|--|
| 評価方法 | ×試験の開発課題 10%、筆記試験の開発課題 30%、 実技試験の開発課題 40%、訓練活動の評価ツールの開発課題 20% |
| 教科書及び参考書 | 教科書：自作テキスト |
| 主な使用機器等 | P C、Moodle |
| その他 | 授業は Moodle を利用した自学自習可能な形式で行う |

職業能力開発総合大学校 シラバス

課程名：指導員養成課程 指導力習得コース

| 専攻 / 科名 | | 授業科目名 (英文授業科目名) | 時間数 | 担当者 |
|--------------|-------------------------|---|---------|-------|
| 全指導科 | | 教材開発法 (Methods for creating vocational training materials) | 36H | 上田 勇仁 |
| 科目区分 | 指導力習得コース | | | |
| 授業形態 | 講義 | | | |
| 授業方法 | 対面授業 Moodle Webex | | | |
| 履修年次 開講時期 | 3年次 後期 | | | |
| | | | 必修 / 選択 | |
| | | | 必修 | |

| 授業の目的と概要 |
|---|
| <p>【目的】教材開発法は、学習者が学習目標に到達するために必要な教材などを開発し、開発した教材を建設的に修正する力を涵養する科目です。</p> <p>【概要】この科目では、独学を支援するための教材を開発するために必要なノウハウにもとづき、自身で設定したテーマに関する教材を企画・開発・修正・報告していきます。</p> |

| 到達目標 |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 自身が設定したテーマに関する教材を企画することができる。 企画した教材について学習者が独り立ちできる教材を開発することができる。 開発した教材について他者から助言や学習履歴を踏まえて建設的に修正することができる。 上記の到達目標を満たした上で、自身の開発した教材を魅力的に報告することができる。 |

| 授業計画 | | 備考 |
|------|-----------------|--------|
| 1 | 全体ガイダンス | 対面授業 |
| 2 | 教材をイメージする | Moodle |
| 3 | 教材づくりをイメージする | Moodle |
| 4 | 教材の責任範囲を明らかにする | Moodle |
| 5 | テストを作成する | Moodle |
| 6 | 教材企画書のレビュー・相互評価 | 対面授業 |
| 7 | 教材の構造を見極める | Moodle |
| 8 | 独学を支援する作戦をたてる | Moodle |
| 9 | 教材パッケージを作成する(1) | Moodle |
| 10 | 教材パッケージを作成する(2) | Moodle |
| 11 | 教材パッケージを作成する(3) | Moodle |
| 12 | 教材パッケージを作成する(4) | Moodle |
| 13 | 形成的評価を実施する | 対面授業 |
| 14 | 教材を改善する(1) | Moodle |
| 15 | 教材を改善する(2) | Moodle |
| 16 | 教材を報告する | 対面授業 |
| 17 | 教材を報告する・期末テスト | 対面授業 |
| 18 | 全体の振り返り | 対面授業 |

| | |
|----------|---|
| 評価方法 | 小テスト(20%) 教材企画書(20%) 教材に関する資料(40%) 期末テスト(20%) |
| 教科書及び参考書 | 教員の準備するテキスト等 |
| 主な使用機器等 | パソコン、プロジェクター |
| その他 | |